

# 田園都市生活シェアハウス／農業＋福祉＋まちづくりを繋ぐ



築 40 年の住宅をシェアハウスに増改築しました。オーナーは福祉関係の仕事をされており、農作業が障害者に良い影響があることを認識され、地域の方々と一緒に野菜を育て、収穫し、料理をして食べる、という一連の活動がまちづくりにも繋がっています。その拠点の場として、共有部分を広く取り、ウッドデッキや庭と繋げる空間構成としました。具体的にはリビングダイニングを広く取り、オープンキッチンを配しました。ここには薪ストーブがあり料理もできます。大庇のあるウッドデッキは、通常時のバーベキューや物干の場、非常時にはトリアージや支援物資の配給、食事の場など多様でフェーズフリーな使われ方が考えられます。リビングダイニングとは全開口サッシで繋がっており、相互利用が可能となっています。太陽光発電は普段における省エネ、非常時での電源供給に役立ちます。庭は畑として使われており、非常時での野菜不足を補います。薪は里山から頂いた間伐材を使っており、薪割りをして収納しているので非常時にも熱源として使うことができます。シェアハウスは共同性があるので、非常時に皆で協力することが自然にできる良さがありフェーズフリーな生活スタイルと言うことができるかと思えます。

## < 建物概要 >

所在地：神奈川県横浜市  
 用途：シェアハウス  
 構造：木造 2 階建  
 延床面積：141.1 m<sup>2</sup>  
 (既存 118.17 m<sup>2</sup>、増築 22.93 m<sup>2</sup>)  
 建築面積：91.21 m<sup>2</sup>  
 (既存 63.91 m<sup>2</sup>、増築 27.30 m<sup>2</sup>)  
 敷地面積：230.54 m<sup>2</sup>  
 竣工：2018 年 4 月  
 設計：(有)連健夫建築研究室・一級建築士事務所  
 施工：(有)亀久保工務店

## ■利用者参加のプロセスがフェーズフリーに繋がる

設計・施工のプロセスにおいて、施主や協力者が参加しており、利用者にとって身近な建物となっています。非常時にも地域の人も含め自然に利用することができると思われま。



オーナーの著書



床下の炭入れ



アプローチのブロック敷



ポスト作り



ウッドデッキ作り

